

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第1週 (12/31-1/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		1週	52週	51週	50週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	17	15	17	18
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	27	24	26	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	12/31-1/6	12/24-12/30	12/17-12/23	12/10-12/16	12/24-12/30
			1週	52週	51週	50週	52週
小児科	RSウイルス感染症		0	4	2	2	38
			0.00	0.27	0.12	0.11	0.30
	咽頭結膜熱		1	4	2	2	66
			0.06	0.27	0.12	0.11	0.52
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18	41	64	52	304
			1.06	2.73	3.76	2.89	2.38
	感染性胃腸炎		53	153	208	204	997
			3.12	10.20	12.24	11.33	7.79
	水痘	↓	7	10	9	10	45
			0.41	0.67	0.53	0.56	0.35
眼科	手足口病		2	0	8	6	21
			0.12	0.00	0.47	0.33	0.16
	伝染性紅斑	↓	8	17	13	14	80
			0.47	1.13	0.76	0.78	0.63
	突発性発しん		5	5	5	4	34
			0.29	0.33	0.29	0.22	0.27
	ヘルパンギーナ		0	0	0	1	2
			0.00	0.00	0.00	0.06	0.02
	流行性耳下腺炎		0	0	1	4	3
			0.00	0.00	0.06	0.22	0.02
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		211	226	276	152	1,948
			7.81	9.42	10.62	5.43	9.50
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
眼科	流行性角結膜炎	○	3	2	2	0	18
			0.75	0.40	0.40	0.00	0.55
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.22
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
基幹定点	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(2件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
				-	-	-	-

・第1週は、腸管出血性大腸菌感染症1件(1)、風しん1件(1)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第1週のコメント

＜水痘＞前週より減少し0.41となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っている。

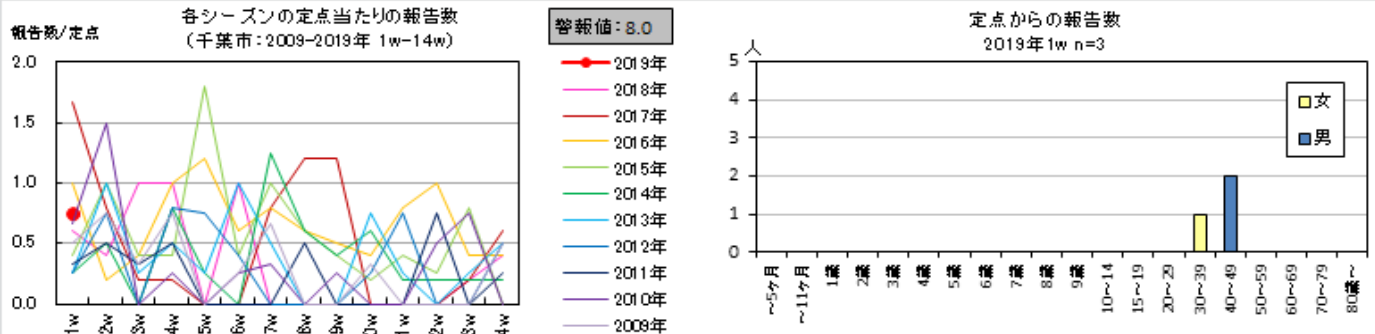
＜伝染性紅斑＞前週より減少し0.47となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し0.75となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

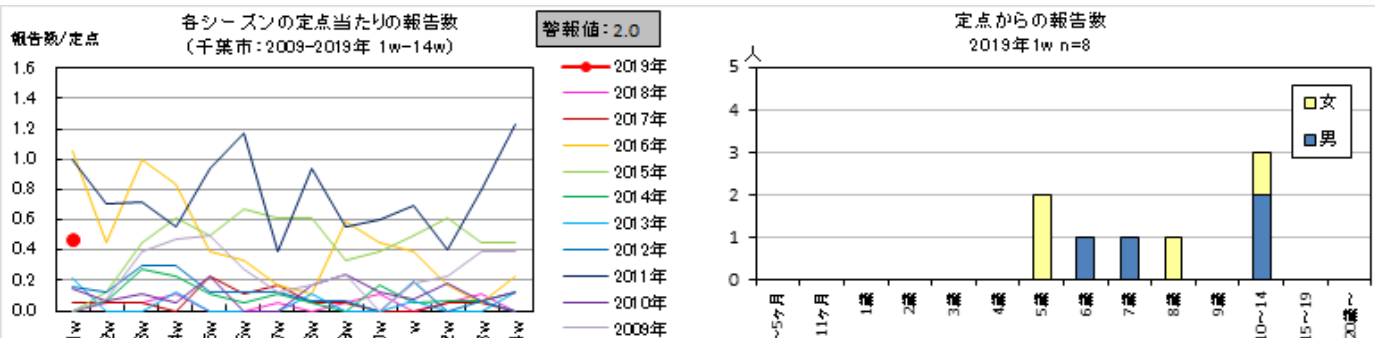
<流行性角結膜炎>

全国レベルの第52週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では愛媛県、福島県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと少なめとなっています。千葉市の第1週は前週より増加し0.75となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は美浜区(3.0/定点)で最多で、同区の40歳代で最も多く発生報告がありました。2019年第1週の報告数は3件で、性別では男性が66.7%(2名)、女性が33.3%(1名)で、年齢階級別では40歳代が最も多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第52週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮城県、新潟県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとやや少なめとなっています。千葉市の第1週は前週から減少し0.47となりましたが、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は緑区(1.25/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週の報告数は8件で、性別では男女同数となっており、年齢階級別では10歳代前半、5歳の順で多くなっています。



<水痘>

全国レベルの第52週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、岩手県、福井県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第1週は前週から減少し0.41となり、過去10年の同時期と比べると少なめとなっていますが、区別の発生状況は若葉区(2.5/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く発生報告がありました。2019年第1週の報告数は7件で、性別では男性が85.7%(6名)、女性が14.3%(1名)で、年齢階級別では10歳代前半で最も多くなっています。

